

4月から英語で、東アジアの経済協力に関し、事例研究を行います。

事例研究 (東アジアの経済協力)」(木曜日 18:40~ 20:20 (予定))

ASEAN,日中韓のいわゆる ASEAN + 3、それにインド、オーストラリア、ニュージーランドを加えた東アジアサミットなど、地域主義について扱う予定です。

アジア開発銀行 (ADB)が昨年公表したレポート、Emerging Asian Regionalism (<http://www.adb.org/>)を参考文献として使います。同地域では、世界の成長センターとして、貿易、生産、投資などの**経済統合**が着実に深化してきました。次の課題として、域内の金融市場の発展、為替の安定などの**通貨 金融協力**が視野に入ってきました。現に、ASEAN + 3では、通貨スワップ協定の域内のネットワークを形成していくチェンマイ・イニシアティブ(CMI)、アジア債券市場を整備していくABMI が進んでいます。

ADB のレポートを通じて、経済統合の現状について、図表などのデータも参照しながら、**地域協力の進め方**について検討していきたいと思います。地域統合については、ヨーロッパが先例となりますが、アジアの場合、域内の経済格差が大きいので、低開発国への支援がより重要になりますし、より緩やかな統合過程になります。主権を尊重し、自由化についても自主的な取り組みを尊重することになります。また、アジアにとって、米国やヨーロッパは輸出市場として依然として重要です。そのため、外に開かれた地域主義でなければなりません。

アジア危機の教訓も踏まえ、アジアの新興市場国にとって望ましい**通貨制度**についても検討したいと思います。

授業では、最初に2回ほど、オリエンテーションを兼ねて、金融のグローバル化が途上国にもたらす影響と地域協力の必要性について紹介します。次に5回程度、地域の経済統合の進展や、ASEAN + 3を始めとした地域協力、望ましい通貨制度について講義形式で紹介します。そのうち、2回は、アジアにおける貿易 投資のフロー、やADBにおける地域協力の促進策などについて、それぞれ、ゲストスピーカーに講義をお願いする予定です。

ADB の上記レポートでは、生産、金融、マクロ経済、貧困削減と環境などについて、各1章を割いて分析しています。また、巻末の参考文献も充実しています。そこで、残りの授業では、関心のあるテーマごとに数人でチームを作り、ADB レポートの関連部分の紹介、最終レポートに向けた研究計画、レポートの概要、といった順序で、英語

で発表してもらいます。最終レポートは、チームごとに英語または日本語で提出してもらいます。

将来、国際的に活躍するための準備として、英語でのプレゼンテーションなどの機会を提供し、コミュニケーション能力を高めることも授業の目標です。

経済学の基礎知識については、幅があると思いますが、これまで、経済系の授業をあまり受講してこなかった学生には、経済学的な思考に、経済理論や実証分析が得意な学生には、政治経済学的な側面に、触れてもらえるよう、授業を工夫していきたいと思います。

東アジアの地域協力の将来像に関心を有する学生を広く募集します。

中林 伸一

公共政策大学院 教授

nakabayashi@pp.u-tokyo.ac.jp